修証論（上）
悟りへの道のり

柳　幹康

今回は延寿が開示する悟りへの道のりをたどります。

延寿はその著『宗鏡録』において「心が仏だ」という一心の道理を繰り返し提示し、最上根（最上の機根）はそれを耳にした途端に悟ると述べています。ところが実際のところ、そのような人は殆どおりません。それは何故でしょうか。

延寿の答えはこうです――大部分の人は「心が仏だ」という事実を見失い、仏に似つかわしくない「不自然な行為」ばかりしている。そのため仏である自分の心に気付くことができないのだ――。

そこで延寿はそのような人々を悟りへと導くために、「①起信→②漸修→③頓悟→④漸修→⑤頓修」という一連の流れを設定します。以下この五つの項目を順次見て参ります。

まず①起信（信を起こす）とは、自分にも

「本来仏である心（＝一心）」を悟れると信じることです。もしも「心が仏だ」という「事実」に対し疑念を抱くのであれば、『宗鏡録』を繰り返し読むことが求められます。以前申し述べた通り延寿は、『宗鏡録』の第二章で無数の想定問答を列ね、第三章で一心を明かす経文を列挙することで、一心に対する疑念の払拭を図っています。

つぎに②漸修とは、「心が仏だ」と信じて仏教の各種実践を行うことです。いわば、仏らしくない「不自然な行為」を離れ、仏らしい「自然な行為」を繰り返し行うことで、体を馴染ませていく段階です。これは漸進的な修行ですので、「漸修」と呼ばれます。

仏らしい「自然な行為」を繰り返しているうちに、やがてそれをしている自分の心が確かに仏だと実感できる時がきます。これが③頓悟です。もとより仏であったという「事実」に気付くだけで、仏ならざる者が時間をかけて仏に変化したわけではありません。そこでこの悟りを「頓悟」と呼びます。「頓」とは「漸」の対義語で、時間を絶しているという意味です。

こうして目出度く「心が仏だ」という事実に立ち返ることができるわけですが、残念ながら従来の「不自然な行為」は往々にして習い性になっており、ややもすれば頭を擡げます。そこで必要となるのが④漸修です。染みついた悪癖を根治する段階です。

そうすることでやがて一挙手一投足すべてが仏の行為になるといいます。仏の行為とは、具体的に言えば、(1)仏の心（すなわち慈悲の心）に基づき、(2)戒律（僧侶の徳目・規範）から外れることなく、(3)あらゆる善行を行うことです。あたかも百戦錬磨の武道の達人が瞬時瞬時に絶妙な一手を繰り出すがごとく、仏として一瞬一瞬自然と適切に行為できる――このような境界を⑤頓修、あるいは

円修と言います。頓修とは瞬時瞬時に実践する意、円修とは円満な実践の意です。

以上の実践過程について延寿は「最初に心を信じて実践に入り、最後に心を悟って完成を得るものであり、終始宗鏡（＝一心）を出ることがない」と述べています（『宗鏡録』巻九）。つまり延寿の修証論（修行と証の理論）も前回の仏教解釈論同様、要は一心なのです。

なお延寿によれば上述の一連の階梯は、それぞれの機根に応じて実践すべきもので、必ずしも全てを経る必要はありません。すなわち、能力の低い中・下根は最初の①起信から順次階梯を登る一方で、能力の高い上根はすぐさま③頓悟し④漸修へ進みます。そして最上根は階梯に渉ることなく、瞬時に③頓悟と⑤頓修（円修）を兼ね備えます。これが最高の境界「頓悟頓修」（頓悟円修）であり、その有り様を延寿は次のように描写しています。

一瞬のうちに根源（の一心）に立ち返り、釈尊の後を継いで仏となり、一念一念つねに衆生救済を忘れず（＝頓修）、一歩一歩つねに真理と相即する（＝頓悟）。このような最高かつ本来の境界に到るには、宗鏡こそが要である。

（『宗鏡録』巻四三）

一瞬一瞬つねに宗の鏡たる仏の心を看てとり、その慈悲の心をもとに一切衆生を間断なく救い続ける――このような仏教者の理想像を延寿は、私たちに到達可能なものとして提示しているのです。

柳 幹康（やなぎ みきやす）
一九八一年栃木県生まれ。二〇一三年東京大学大学院博士課程修了、博士（文学）。現在花園大学国際禅学研究所専任研究所員・専任講師。著書に『永明延寿と『宗鏡録』の研究――一心による中国仏教の再編』（法藏館）。

お願い

花園俳壇・花園歌壇

俳壇・歌壇への投稿は、それぞれ別の官製はがきを使用し、
各三句(首)までを読みやすく書いてお送りください。
＊〆切りは毎月1日です。

花園へのご意見・感想など

本誌へのご意見・感想など、「編集室花園係」までお送りください。
お待ちしております。

送り先
〒616-8035 京都市右京区花園妙心寺町64
妙心寺派宗務本所内編集室
俳壇／歌壇／花園　係

＊住所、氏名を必ずお書きください。
＊俳壇・歌壇ともに作品は未発表のものに限ります。(他誌投稿作品、転載は不可)
＊なお投稿はお返しいたしません。

花園 hanazono 「いつもココロに花園を」
あなたとわたしのポケットエッセイ集

【花　園】第67巻 第9号(通巻第793号)
平成29年9月1日発行(毎月1日発行)
定価55円
【発行人】栗原正雄
【編集人】畠中寿浩
【印刷人】喜田眞司
【発行所】〒616-8035　京都市右京区花園
妙心寺派宗務本所 教化センター
振替／01060-9-1400番
電話／075-463-3121番

表紙の絵　「シャボン玉のお庭」

小さなお庭をシャボン玉いっぱいにしたら、まるでシャボン玉の国にいるようですね。　絵・SAYOKO

妙心寺派ホームページ…… http://www.myoshinji.or.jp
臨黄ネットワーク(臨済宗・黄檗宗全般)…… http://rinnou.net

『花園』誌一冊送りの年間購読料は、1,560円(送料込)です。
お申し込み・お問い合わせは頒布課まで。

＊乱丁、落丁本はおとりかえいたします。